



JSCA千葉ニュース(冬)

発行 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報・会員委員会)
〒260-0045 千葉市中央区弁天2-16-18 (有)市原建築構造設計事務所 内 TEL043-225-2181 FAX043-252-6174

JSCA千葉 令和元年 第22回 通常総会 記念講演会、懇親会の報告

JSCA千葉(広報・会員委員会)

【令和元年度通常総会】

令和元年5月31日(金)午後1時30分から三井ガーデンホテル千葉にて、JSCA千葉第22回通常総会が、司会役の梶山役員の開会宣言により開催され、上程された議案も滞りなく承認され無事に閉会となった。



通常総会会場



司会進行 梶山役員

耐火被覆材の施工面積は、増加傾向にあり推定では2,700万㎡/年との事で、その内耐火塗料の占める割合は1%との事でした。吹付ロックウールが最も多く、74%との事です。耐火塗料の使い方としては見える部分に使い見えない部分には吹付ロックウールを使うようにすればもう少し需要が増えるのではないかとの見通しです。

耐火塗料の防火性能は、550℃で鋼材に影響が出るので、500℃を目標に利用するのがいいとの事です。

耐火塗料についての説明では、4段階の状況の説明がありました。まず熱を受ける前の発泡前の段階、火災時に熱を受けると250℃前後で発泡を開始する段階、それに発泡途中の段階、最後に発泡完了の状態では、20~30倍に膨張発泡し炭化層を形成するそうです。

耐火塗料の塗装工程の説明もありましたが、手間はかかるようでした。1時間耐火・2時間耐火では、鋼材の寸法により適用外もあるようなので、意匠設計との意思疎通の必要性もあるようです。ダイヤフラム部の工程も多くの手間がかかるようで円形鋼管を意匠的に細く見せたい時などに限定されそうです。

講演が終わり、質疑応答ではビルトHと高力ボルト部の500℃についての質疑がありました。

JSCA千葉 第21回 通常総会記念講演会 JSCA千葉(広報・会員委員会)

【通常総会後の記念講演会】

総会終了後の午後3時から、同ホテルにて構造設計者には日頃馴染みの無い耐火塗料についてエスケー化研株式会社 東京開発本部 防火技術チーム 兼事業本部 耐火断熱営業部 藤原武士課長より「耐火被覆等の概要及び最新製品情報」と題して講演をしていただきました。



講演会会場



講師 藤原武士課長



総会司会 佐藤委員



謝辞 園部監事

最後に、JSCA千葉 園部監事より、「ご提供いただいた資料では少し高い材料と感じますが、折角勉強する機会があったのですから、使用出来る物件があればエスケー化研株式会社千葉支店の土橋さんに電話しましょう。」是非使いましょうという謝辞で記念講演会は終わりました。

JSCA千葉 第22回 通常総会懇親会

JSCA千葉(広報・会員委員会)

【司会および開会の挨拶】

司会は、栗田役員。市原代表の挨拶で始まりました。

【市原代表の挨拶】

皆様こんにちは。第22回通常総会懇親会にご出席頂き誠にありがとうございます。総会は無事終了しました。平成10年(1998年)に発足したJSCA千葉も会員数が100名を超え、賛助会員40社を数える組織となりました。各々の会員の個性豊かな創造性と応用力を利用出来るようなネットワークを組んでいきたいと思えます。私事ながら、趣味はカメラとステレオをいじることです。100年前の真空管は今も動きます。

JSCA千葉の役員のみなさんも各々特色があります。若手諸君も特色があり私はわくわく感でいっぱいです。

JSCA千葉
市原代表日本建築構造技術者協会
横山副会長

【来賓挨拶】

一般社団法人 日本建築構造技術者協会 横山副会長 総会と記念講演会おめでとうございます。

JSCA本部は平成元年に法人化してから30周年です。そろばん、計算尺の時代から進化し、PC利用が当たり前になり、手書き図面もなくなりました。現在はBIMの利用が始まり、JSCAの知見をデータベース化したいと思います。

日本の構造設計者の数は一級建築士の内、構造設計一級建築士が1万人。JSCAの正会員は4000人です。JSCA本部も若返りをしたいと思えます。

【来賓挨拶】

千葉県県土整備部都市整備局建築指導課 宝田課長 総会が盛大に行われお祝い申し上げます。

JSCA千葉は活発な組織だという印象をもっております。

千葉県でも沿道建築物の耐震化が義務づけられ今年度は戸建て住宅でも耐震診断・耐震改修・改修工事をセットで補助する事業に取り組みたいと計画しているところです。並行して県立学校の大規模改修などにもご協力頂きたい。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

千葉県建築指導課
宝田課長千葉市建築情報相談課
保科課長

【来賓挨拶】

千葉市都市局建築部建築情報相談課 保科課長 総会・講演会が盛大に行われおめでとうございます。いつも市の事業に協力いただきありがとうございます。千葉市では現在、2020年オリンピック及びパラリンピックの準備をしているところです。

昨年は千葉駅ビルが新装され中央区役所はキボールに移転しました。旧区役所は美術館を拡大して利用します。千葉市におきましては木造住宅の耐震化・沿道建築物の耐震化・通学路のブロック塀改修などなど皆様にご協力いただく事業が山積しております。ご協力お願いします。

【来賓紹介】

司会の栗田役員が名簿により、ご出席の来賓を紹介。

【乾杯】

一般社団法人千葉県建築士会 久富副会長 新しい年度の総会おめでとうございます。災害の多かった平成も終わり、何事にも対応出来るような組織と体制を構成していければと思います。仲間を作り皆で新しい時代へ挑戦をしていきましょう。

それでは乾杯。



乾杯 久富副会長

【賛助会員紹介】

歓談が賑やかに始まり、(株)角藤 平瀬賛助会員の司会で賛助会員の紹介と各社営業担当の挨拶が始まりました。

飲み、食べ、雑談しながら過ごしている内にSAKI&BeBeのライブ演奏が始まり、山口百恵の「さよならの向こうから」 絢香の「三日月」に続き「上を向いて歩こう」の合唱で盛り上がりアンコールは「オリジナル」で締めとなりました。



演奏者
SAKI & BeBe



祝宴風景

【閉会の挨拶】

JSCA千葉 佐藤副代表

今日は、総会から長い間ありがとうございました。

今日のSAKI & BeBe の演奏を聴いていて、久しぶりにJSCA千葉バンドをやりたいくなりました。

三本締めは日本独特の気持ちを一つにする良い習わしだと思います。恒例の三本締めで閉めたいと思います。気持ちを一つにし、三本締めで締められ会は終了しました。

おわび JSCA千葉(広報・会員委員会)

JSCA千葉 令和元年 第22回 通常総会 記念講演会、懇親会の報告は、以上で終わりますが本来、この記事は夏号で取り上げるべきものです。

正会員 明智孝夫前編集長が7月20日ご逝去されました。夏号が発行できなかった事で、広報・会員委員会では明智前編集長の存在の大きさを改めて感じました。

その間にも、技術交流会、見学会といった行事が行われJSCA千葉役員の皆様から記事やレポートの提供があり励ましていただいたのですが、そろそろ新年会の話が近づいた頃、やっと発行の準備を始めることが出来ました。記事のレイアウトの編集能力の稚拙さが恥ずかしい状態ですが、次の段落から、お寄せいただいた記事とします。

「JSCA千葉と鐵骨工業会様による合同勉強会」

佐藤建築構造設計事務所 阿部裕太郎

令和元年11月22日(金)に10年ぶりの開催となるJSCA千葉と鐵骨工業会様による合同勉強会が行われました。

JSCA千葉から24名、鐵骨工業会様から各グループに2名のほか、東京製綱株式会社様、フルサト工業株式会社様が参加してくださいました。

初めに鐵骨工業会様による、1.鉄骨の製造工程、2.鉄骨の発注や流通形態、3.鋼材価格の3点についてご説明いただきました。その中の流通形態で、開先加工等を行う一次加工業者が間に入っていることを初めて知りました。規模等にもよるとのことでしたが、今までファブリーケータで鉄骨加工をすべて行っていると思っておりました。

2番目に、JSCA千葉からの事前質疑事項に対する回答でした。私もファブリーケータから質疑で頂いたことがありましたが、柱梁接合部のダイアフラムと梁フランジの突合せ溶接部の開先角度の設定を45° とするのか35° とするのかについてでした。千葉県内のファブリーケータでは35° を使用している工場が多く、と45° との違いについては、溶接性能は変わらず溶接量が35° の方が少なくなる程度なので、基本的には35° 開先が望ましいとの回答でした。

3番目の製作困難事例の紹介では、横補剛としての小梁接合部のボルト設計は悩むことが多いですが、今回加工の手順等を聞き今後の設計で気を付けなければいけないかと再認識させられました。

4番目に1グループ7人程度の合計5つのグループに分かれてグループディスカッションを行いました。私のグループでは、「普段の設計でもよくある梁段差部の通しダイアフラムの最小内法長さについて、ロボットが出来る範囲は150mm以上なので、芯間距離にするとそれ以上必要になる(手溶接すれば芯間150mmでも製作可能)」 「継手位置・寸法について、最近は運送会社のコンプライアンスも厳しく、少しでも出ると運んでくれないので最大長さ9200mm程度、幅は2400mmを上限にして欲しい(10トン車の荷台の長さは最大9600mm、幅2400mm)」など非常に勉強になるディスカッションでした。他のグループでは、「製作困難事例」についての議論があり、(4面につづく)

(3面より続き)

意匠の立場、構造の立場で、設計の段階において十分な打合せを両者が行い、特に製作することは可能であるが製作精度が下がることや費用のこと等を説明し、時には工場に相談する必要があることを痛感した。

「若手、中堅、ベテランが偏らないようなグループ構成だったため、若手が他事務所のベテランやファブリケータの方々と直接話をする機会が出来て良かった、またベテランの方の経験を踏まえた話を聞いて勉強になった」とのことでした。また設計中の案件の話で製作側(ファブリケータ)としてのアドバイスを頂き、非常に勉強になったそうです。

最後に製品紹介を東京製鋼株式会社様、フルサト工業株式会社様からいただきました。BCR295は製品名だということには驚きました。

最後に、10年ぶりの開催となった「JSCA千葉と鉄骨工業会様による合同勉強会」で資料作成等して下さった鉄骨工業会の皆様、グループ構成をベテラン、中堅、若手と偏らないように構成にするなど企画・調整を行って下さったJSCA千葉の皆様、本当にありがとうございました。



千葉県鉄骨工業会の挨拶
JSCA千葉代表



グループディスカッション1



グループディスカッション



グループディスカッション3

JSCA千葉主催「賛助会員との技術交流会」レポート
第一回(ダイジェスト版)

西原建築設計事務所 西原 幹夫

第一回 1月18日(金)14:30~17:00千葉建築会館8F会議室
講習会参加人数21名、懇親会参加人数13名
岡部株式会社: ベースパック・クラウンパイルアンカーの説明
(株)グランテック: 地盤改良のスクリュー・プレス工法の説明
日鉄建材株式会社: ノンダイアコアの説明



賛助会員との技術交流会



賛助会員との技術交流会2

JSCA千葉主催「賛助会員との技術交流会」レポート
第二回(ダイジェスト版)

池田構造設計 池田 格

第二回 2月15日(金)14:30~17:00千葉建築会館8F会議室
ジャパンパイル(株): 会社説明とジョイントカブラ工法及び
MAGNUM工法の説明
(株)NTTファシリティーズ総合研究所: SEIN La CREAに
よる設計の実演とBIMとの連携の説明
(株)向山工場: 高強度せん断補強筋エムケーフープ
(MK785)の説明



賛助会員との技術交流会3



賛助会員との技術交流会4

技術交流会は、賛助会員さん各社が保有している工法、技術などをJSCA千葉会員向けにPRして頂く会です。参加希望者は、次回以降の開催案内で参加してください。

編集後記

夏号の編集集中に突然、前編集長である明智氏の訃報が届きました。今まで毎号編集の仕方の相談などさせて頂きこの記事を今回載せるのはまずいかもしいねなど

アドバイスをいただきながらも、まあ君の判断でもいいよなどと言っていた機会もありました。情けないことに夏号も秋号も発行できずに過ぎました。療養の事も知らせず逝かれた故人のご冥福を祈ります。

JSCA関東甲信越支部総会及び千葉サミット、中国重慶市視察などの記事は、次号以降で掲載させていただきます。